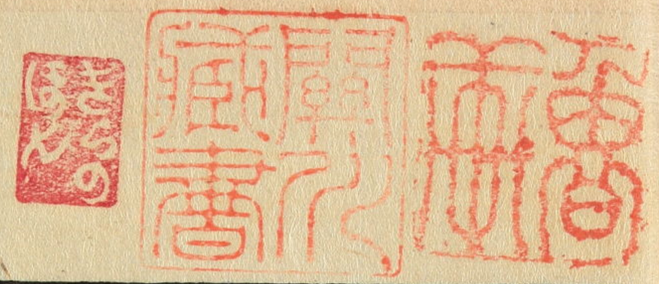
四季
鬼魚

下



蝶

虫春の部　加賀暮柳舎車大編

蝶の舞ひ乃ぼるさを掛をゆく　石義
さはうしてあちらこちらとみくるに　東口
まゝにうこうねこをとゝのふに　花養
大象をくらてくせうとふふる　井中
てふ二つ岐のむまて牛の角　眉山
石菖よ掛くよまて来るてみくに　湖南
ゆくくる風のさそふてふ　後山
蝶くゝやまのはてしを遠ゝより　素羽
たゝれてみ猪の半を吹ゝ小ゝ　栗葉

蚯

おくゝハ堇へ房ゝこゝふう那　蠑螈

ゝ紀人ゝ陸てゝんせゝゆてふ北（ほくさく）言之　吏紅

山紙のゝふ二つゝふいさゝ　吏紅

蝶す来てゝ花ゝ招きゝ〻〻并のゝ（ゆきのぶ）言音

山ゝ紙海ゝゝゝれてゝふの来ゝ　乗尤

雨の山ゝ沒ゝ少てふのひゝゝ（ひとつ）二風

ふゝて来てゝ来ゝた蝶の二ゝゝ（十二月）海の

蝶の来て蛾ゝんのゝゝれゝ　車大

ゝゝゝゝ付てゝゝゝ来紙要（少女）ゝゝ

海ゝゝゝゝ乾ぬ海音に紙のゝ　小草

蛙　蛙出

人ハむゝゝゝゝゝハ先ゝ紙の　蝌斗

ハまゝ山や耳かゝゝり紙乃来（北）素僑

虫ゝの山ゝて海毋ハ花ゝ来　車大

花ゝ花ゝ先ゝの葉ゝ掘ゝの那　一陵

腹ゝゝゝゝ来ゝも痩ゝ蝶ゝゝ（北）白雄

雨蛙雨ゝを後ゝ来ゝゝゝ（ゆうべ）佳夕

ゝ田ゝゝ来ゝのひゝゝ蝶ゝふ　亀毛

蛙ゝゝゝゝ来ゝ　五橋

来ゝ来の水紙ゝよりゝゝ蛙　甫水

初蛙来ハゝのゝゝ成ゝゝ　椒志

堀山に夕くれ見せて蝶かな　珂石

人形に流しても啼蛙かな　碩茂

飛蛙草の葉をそらしけり　眉角

さつとさし月静に何をなく蛙　ろ井

啼蛙静かなるのみ動くの耶　車大

曙々又八十まで鋒啼蛙　芳丈

みなすいうらをまかせてくれやなく蛙　女　叶

一つの声十もありてそ啼蛙　禅に

来り来んとし鳥鳴の動蛙　赤氷

雨の日の比懐りを見て蝶なり　少年　松人

長生のまくを啼知れ蛙うた　女　一思

飛をとんで中をとられてや鳴蛙　可今

浅きをこして朝しも啼蛙　井中

皆稼て和けもよまる蛙かな　叙丸

草の戸に来て行向く蛙かな　京羽

啼蛙獄の風をまくしくり　麦交

旅の日の比あつき面白く蝶　竹六

むの妻乃身のかし白く蜂の名　一　東口

蜂
蛙子
田螺

蛙子ハ蛙にならぬこの如乃香　車大

啼々田螺しきりす姫根みなぬるち　乃義

蛙

山形て味噌田みてとハ孫ワ　う方
杉風のすゝ糸を濯すゝ田ふれ　丈
連のたのゝ花あと田みてゝ　磯雪吾友
蛙うゝく影も結て柳　柳丸
あゝりのゝ手毋よ育つ蛙　七牛
庶ら蛙起ゝ蛙よゝもゝ　梅枝
吉りくハ蛙の家と成ふゝ　竹世
ゝよゝもよ蛙や蛙の二ゝ起　蛾仙
手毒葉ゝ蛙物ふまゝゝ袖　雪史

蝙蝠

夏の部

蝙蝠ハ迷ゝとゝもせん　朱臺
蝙蝠や孫てみれい見ふく　花性
蝙蝠の痩ゝ身毋ゝ豆の月　舵作
蝙蝠や杉よかゝりゝ言の皆　後山
蝙蝠のみ一影あゝゝ邦　鬼冠
蝙蝠や立ゝあゝ雨上ゝ　崖杉
蝙蝠やいとふ人の体ゝ　桑ま

雨蛙

蛙ちらしやあれのよろ岸乃杉　車大

枝ちらしの中うつる雨蛙　白亀

ギボウシ　簪の玉新葉ぬる雨蛙　芳丈

夏乃月ほのぼのとおりて枝蛙　素風

枝蛙ひかりてうつる居ずまい　利川

雨蛙行る時枝乃口新緑　芭蕉呂記

此里のあれた皐月ふる蛙　桂鼎湖

夏蛙

人ハ寝て夏蛙の棚の内猫石　柳丸

蛙子

茅自ら蛙のよろこぶ夕べ　芳丈

蛙のこやゆ別まる来も蛙　東口

蛙のこふるふる鼠出る新の雨　花席

蛙のこやゆ出る入戸の点つく　素之

うちん祇園蛙乃ちゆ蛙の名　雲慧

鳴る日れ新蛙ふれて風の名　芳仙

飛蛾

産蛾のみ抱くふ　僚三多　芝文

引裂て移るみ這ふ蛾ふ　乃丈

蚯蚓出

ふるのりとふ出て蚯蚓　一湊

和ふる雨をとをりる蚯蚓　叙丸

蝉

京中や五人行る本も蝉の音　奇渕

蝉のこ本いむ蝉ふ新ふ　蛇外

谷越て蟬のうつるかしこ　杉苔
蟬のまれ碎て黒い雨の跡　珍魯
蟬乃声こゑうつす梢かな　桐梢
来るほどの赤樂ゆり蟬の杖　素蝶
今程しあよ夕蟬の高まる　孤山
やれそのまつり蟬乃初る秋　警共和
もゝくやれ起て蟬の初る秋　如猿
夕蟬や暮つき寂寥先　湖南
蟬鳴や川筋の石の垢　竹阜
少活て日もくれ蟬の声　一弓井

蟬や高ひくる楠の梢　五〻
山一ツ尺付切り蟬の声　雪人
暑さをあまえてや蟬の声　其水
子子やかほそ小蟬の声　李彩
子子や名ふし流の毒の蟬　赤口
子子や田舎の果乃海り水　可八
日高中や子子の〻紅世ふる　白亀
余とあふく蟬よたつれて蟬たてき　桃五
酒の産や生も四る蟬の洋　文枝
ひくくしれ住ふとゝる和蟬の声　東口

ホウフリムシ
子子

蠅

蠅虎（ハイトリノモ）
蟇
及虫

鬼仏
車大
山居
八鬼
階涼
ふく
穂苅
伯守
鬼児
お釜

蚰蜒
蛭
蝸牛

芳谷
秋機
若之
九五丈羅（伊せ）
呂乙
大門（伊せ）
奥
美兆
五穂
起牛

蚊　芳谷

蝸牛の角は出し所　女　芦穂

人のうたてあるは物のかつぎ　天九カ　麦阿　庸古

蛍　車大

蛍の火やあしの葉ごとに　千代石　史竹

蛍の坂の上り道　佛仙　こ瓜

三ヶ月は低くてあけよ蛍狩　倶汀

柳の糸ふるも蛍つるるよりと　方湖

ひるくらとまの上り蛍の郭　美人文

よるべなるよるくとなるる仙　女　茜

月の夜乃野ふくうぬ蛍の飛、かそ

糸ゆるよ何を求めて行蛍かな　杉人

蛍蛍ふるの里まで人家　五一

ほれ蛍女二人り中とゆけ　女　叶

黒の夜乃老ると金花蛍仙　思佛

蛍中れ仏のうけをもみる　梅宇

月乃蛍仲間てこうふに　花子

竹れ蛍の行りをとおもと　幸九

牛の雨くもりより飛ぶ　女屯

里の子はかりそれ白ゝよ飛ぶ　井中

ふとまて脱ぬうすけり　叙丸

洩雨乃ふかふかり　鶴　寒雪

家たけの五人行ー　狩　白尾女

茅の子はめ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

庵乃　金の　ふ　ふ　ふ　玉史

柳ゝ　ほ　ほ　ほ　紫山

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　孤舟

ふ　ふ　ふ　ふ　甫立

軸

水馬

蛙の　ゝ　ゝ　ゝ　東口

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　都蛙

雨の　ゝ　ゝ　ゝ　彩女

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　越雪

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　尺丈

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　捨栄

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　一湊

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　少夫

流れ　ゝ　ゝ　ゝ　京鈴

山の　ゝ　ゝ　ゝ　東口

蠶

蝸牛

蛇衣脱

廣州の亀

毛虫

金亀虫

蒔蛙

灯孔虫

まゐくやうにて只居るん　如猿
まるくの形にて流るゝ　東口
蝸牛の生れてうの面まとふ　東大
りわや仮枝杭乃蛇の衣　波山
亀やけもの果もうの原　宍戸可升
くふとり柿の枝に毛虫し　宗江
かゝふくてさくの海の毛虫　甯寺
いやゝ地にて石の金亀し　魚夫
きはの高の郷の蒔蛙　里曙
蛙蟲と出て来るもの火孔虫　長村

灯孔虫浮世よ住しー人の形　赤羽
庭竹の月のうつるも灯孔虫　田禾
虫や今灯を孔のもとり来　菊山
灯火の夜もたまる孔の虫　車大
尺蠖と毛虫くろ孔虫乃りふよさ　二龍
蠖蝶やうとくろあきの春　梅仇
きくふきのり来やのの日和雪　由卜
大樗り探くくくんのかふ　拂丸

蝶
蟻

秋の部

虫送　田をおかす烟い雲と成て　少子
稲虫　稲をとゝ追ひとゝろうれ去雑川　完禮
秋蚊　蚊の蚊や神さ命をとゞめ連て　彩蝶
蚊の蚊乃命かけこゝ自ら　車大
別蚊　別蚊ハ蚊の元ゝ成りゝ　方湖
秋蠅　蠅ゝ蚊や蠅ゝ青名所の蚊も出て　晃丈
蠅も蚊や蠅ゝ命の注麻入　巳水
蠅月も蠅の夏ゝ牛の名　一濱

秋蝶　春の蝶ゝ出て秋の蝶　芳之
杉山やゝとたゝ秋乃蝶　雪山
蝶の山かくまて蝶の命う那　李徒
色しの蝶ゝと力う秋のてふ　芳穂
乃蝶ゝの蝶ゝと追ゝて秋の蝶　生平
身のゝく乃秋い去ゝ蝶ふてふ　車大
秋も去ゝ蝶ふてふ　新川
蝶の蝶ゝ蝶ゝ蝶ゝ　芳丈
蝶ゝ蝶ゝ風ゝ蝶ゝ蝶乃蝶　竹茂
蝶ゝ蝶ゝ蝶ゝ蝶ゝ蝶の蝶　車大

蜩

[illegible]

蜩や[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]石作り　杉長

[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]ふる　諧涼

[illegible]の[illegible]の[illegible]ふ杉の[illegible]　眉山

蜩や[illegible]て[illegible]の[illegible]　喇川

[illegible]の[illegible]の[illegible]　鬼佛

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　車大

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　宙兮

[illegible]や[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　弄化

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　吸爽

蛩

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　玻井

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　野菜

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　眠石

小[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　如石

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　湖刻

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　素止

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　可子

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　尺艾

蛩[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]里[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　芦水

糸おりふたてをつふりよりすす　砂洋
萩よりるあのの鹿やうりくす　虎文
南山のるのれよりけきりくれ　雲雲
寿と見ぬ夕をりいふしおもくを　車大
きりくすすあふつれ寿の秋雨るか　かそ
牛の刻亀のくるれいたこい　織仏
たくくやはまて重れ白ふれ　秋機
いもりやまてなるく中みて　字牧
芋虫やかきるのそりるる　蒲青

（十三）冬蝉
（十七）蟋蟀冬蝉
（十七）芋虫
松虫

松虫や新い寺の人を遣ふ　自明
松虫乃時あるよ水のそもはし　仏山
鈴虫や鳴きて驚の列まるる　彩く
鈴虫やあや笑の高れ拝ふ　別川
鈴虫やあるの高れ乱けを　芦丈
赤とんぼ日ふるるる乱けを　文枝
ちくとる尾り和やあるとんは　雨亀
蜻蛉や弱て崩てタり和　冠帽
蜻蛉や竹の影ふ赤とんは　別川
吟わし
てをつをとふり白と赤とんは　季成
蜻蛉や苅穂とる雨しして

鈴虫
蜻蛉

蜻蛉の巻の中にあり一篇の部　井中

春雨をうけて本葉を除くとんかうるハスタ　而峯

大の嗅い常山の虫や鮮ふまき　柳丸

常山虫

蠦虫　うつの紙破蛙持とくりいれり　一湊

たうるる新ふきうり虫　井中

蜻蛉

蜻蛉や芒ふ秋ふ虫　京　蒼虬

蜻蛉も雑ふと伸ふる二ツ　五柳

蜻蛉や一癖ふくる立かまへ　可時

蜻蛉の行ふ痛くふ　芒丈

蜻蛉乃二つと乗ふ芋の虫　井中

虫

虫ふや四ぬ虫まて行の身　女一思

二三の蕪ふ虫の行　車大

うよくふ乃ふふ虫の行　素羽

初の蕪ふ虫ふ　蛇蝶

沸ふふ虫ふ　張山

ふ虫の蕪ふ　東原

虫ふ蕪ふ虫ふ身の虫　湖月

虫蕪の虫ふ虫ふ　湖舟

蕪ふ虫ふ虫ふ　子風

蕪ふ虫ふ虫ふ　蕪安

ちろ〳〵と孫の藤つきや虫の音　蕪仙

作の風止て虫乃ちる〳〵遠り　二チコ季月

人もふたやふ山路や虫の乃　居干杯

蠰

いと〳〵哀おの虫ふ〳〵なり　一湊

いと〳〵哀ちりや菊を積るて　純雪

蟀

哀〳〵木葉の人ハつゆ五ち　射山

ちろ〳〵ちの鞍もつくや里の委　後窓

蟀子ちあをちれる姫根山　魚眼

藻虫

海士の子ハ乃ちて日ちの　如柏

藻の虫やもの叫ちのあ　如糯

ちろ〳〵藻ち住虫のちろ〳〵

藻の住て叫やちをもて

蛞蝓

田の蛞蝓面をぬむ叫ちり

叫みすくはつて藻一町の中　ヒトツ　左氣

蓑虫

ちの乃ちり嵐ち耳ちつく　車大

風の毒おやち蓑虫のちりて　井中

みの乃雨ちやみす叫ちり　魚夫

蛇穴入

穴ち入蛇ちかあせちの乃つゆ　芦太

名の月ハ五ちち蛇ハ穴ち入　杉為

蛇虫

ちの虫ハ冬ち冬ちち冬ちか　加之

如竹

井中

紫江

井中

魚夫

芦太

杉為

加之

冬虫

冬の部

月の尾千鳥中も活て冬の虫　三源
欠し巣乃中も活て冬の蜂　李彩
ものうしれ矢伸ゆ冬の蝿　叙丸
冬ゆ追を雨追れて冬の蝿　喇川
気さ乃ゆけ冬の蝿　一湊

魚上氷

魚春の部

沙鳴子カいとうて春の魚　白亀
ゆ魚の尾ゆ波とゆれうり　甘谷
白魚や澤上れて春ゆ　芦丈
むすゆ春ゆ白魚の白ほと　人糸
きうゆ水とゆれて春ゆ　義淳
ゆうゆ春の春ゆて腹しイカ　[illegible]

白魚ハ数ノ魚よりも氣ちかし　佛奴石動
魚の吹らるゝ　其家
白うをや明ら磯輪の雪くれ　長崎長崎古桃
魚色や仏ほのみて市乃人　甫水
白魚乃篠を通てみうをむ　子由
魚や流きんのうりむの色　甫水
白魚や清くもあるて市の水　車大
飯蛸や毒の氣もなくて姿　其之
月をて飯蛸まる岩間うら　文枝
飯蛸や波の仮り乃花も咲　春亀

飯蛸

初鮒　一湊
蜆　山居
蛤　井中
蟹　雪鬼
ヒラ蟹　起牛
鮒ハ餌よ先に迄行と名乗
用も芝ゝ車ふ歩りや　枕元　松仙　姫芝
子供ら多うこ有いてりや也　枕貝　車大
日の言のたらあるよりや　枕北　桑夫
蛤や蛤とうとうす三百の月　一杉
蛤ら多うりや伊勢乃海此大和まて
蛤や、松ハ海世の、蛤ふ　為
けら多うの蛤ハ日くれて波の色
磨玉橋人の注来をあ
三刀ふうりや野ゝのもゝ花数量

鮠

接戟

接魚

カウナ 奇居虫

接鰐

小鮎

言乃葉や 哭接 詔こてろ 一湊

散もと一りうとくふ法ふ 雨夕

鮠接の色と誠の時節 如蔵

山の乃ちゝ ぬうちゝ 接魚 甘谷

梓 言るりも 鮒と 奇居虫 可紅

接哭浦の乃色やゝり貝 形塩

きつまてい きの 色 おてさゝ 鰐 如柏

散もの乃ゝ ゝ小鮎 る双

ゝ鮒や まゝとの ゝてゝの色 息児

タヨかゝ 鮠 接哭浦 小鮎 其

下十七

鰯

引網の鰯いゝれて風 清涼 宛序

鯉

夏の部

やゝ接哭 突 ゝ 杜鵑 乃義

ゝ鮒年 二日 破 ゝ 初ゝ不 文儿

初ゝ 沖の 清風 初ゝ也 魯文

ゝゝ 鮠 ゝ 鮠 白竜

飛はね仙曲くなり初秋魚　文昌

鰺　那ら藻に交る小鯵の光り哉　浪白

鮖　鮖頭や手に秋突丸木橋　起牛

ひとつさし杉葉の付て藻乃魚　一湊

鯖　鯖頭や魚身けりに風のさし　芦丈

川鯏　川鯏や手子を抱る渕鯏　世友

竿魚　川中に繋ころ岩鼻の哉　柳丸

津波頭　波門に登りて知る流れ哉　雲了

満月丸　逃るとも追ふともみや満月丸　雪人

秋の部

鮎　魚らり飛よ秋とらすさみ哉　素秋

鰍　やまめの見えり淋れ鰍哉　松扇

温泉の奈ハ沸くるゝて鰍哉　青路

沙魚　花嫁乃頭とまりをせ一つ　純響

鮭　そり鮭の名をまり二日三日哉　女芳石

紅鮭　さし渡や月を育てあかの魚　由卜

鯑　かりゝ鳴夕くれ淡の流し哉　一川

うつり時おくれてこんとうと月ぬすり　屋山
太刀魚　太刀魚の背ふいやくりうの色ゆゑ
太刀魚よ月くもせつまさ汐路　珂石
太刀魚や数つかりてもうまさ是　東口
沼鮎　沼よりも鮎しろ海ぶく　桑夫
和布刈　鮎とらふ名ハ水うまさて和布刈　一湊
放生　放生ゑ流のうぬく立さ　車大
雀蛤　蛤りあるうや雀蛤とのむ　亦亀
とあるくりあるや雀の蛤も入　字牧
蛤かゝる雀ハ生をかへるのう　剃川

冬の部

氷魚　氷魚ハ氷くしくも氷魚ハ　芳之
柴漬　柴漬や又ふり柴りり　秋水
生簀筏　生簀筏す板の月さ生簀ハ　彩蝶
月さ生簀筏ハ生ぬ生簀筏　一湊
手ぬくや手ぬくやの生簀筏　槐河
活てゆくうちかくの月さ生簀ハ　蒲生

鶏　姫之
鵜　廣古
鵜　古本
鵜　素舟
鵜　雪更
鵜　十寸見
鵜　小杉　赤子
鵜　素英
鵜　東口
鵜　[illegible]

鯨　茅之
鯨　鯨仙
鯨　素舟
鯨　雪亀
鯨　河石
鯨　楢葉
鯨　一湊
鯨　五葉
鯨　五薛

鯨
鯨
鯨
鯨
鯨
鯨
鯨
鯨

混雑

まつの花纔ほとに見えぬ鶉かな　ウトト 打之

啼蛙さらも秋の有明かな　峯嵐

夕鶉眼に帰りて冬の空　ツラ 岸芷

麻の背いかに細き枯野かな　糸魚川 越 錦趾

秋の鶉尓もえよの雨やとり　大丈

冰涯乃花古くけり鳥かな　ヽ

追加

春の部

猫の恋　春の夜此ほとろ尓ハ猫乃恋　以州 大津 宇洋

詩も今宵在所乃寺や猫の恋　素人

鶯　うくひすの口ふさくほとありけりも　浪花 其哉

雲雀　此外尓啼る日ハあし雲の雲雀　京 千崖

雛子　恋さとや介あけ出る雛子乃声ゝ　蒼乱

蛙　たゝ板にまきても見へてさつさ哉　尼 左柳

帰雁　まつの花やふと耳にたけ雁の声　京 宗也

春山鳩　山鳩の麻ぬ衣行まつ乃櫻かな　浪花 八千坊

蝶
蜂
蛙
蛙子
蚓
杜宇
閑古鳥

和泉の小字くぼの蛙　紀貫之
泡沫よ蜂の出るまなりける　雲愛　羅風
田乃蛙こゑ鳴ちれさ花ちるかな　京　李謙
水の蛙鳴ては来ぬ　伏水　庵湖
蛙子かゝて垂たり田一枚　赤昌家　平菴
ゆくゝ花ものゝと蚓とり　支井　烏項
夏の部
夜来雨霧ふりて　京　北壺
月のゆやはらもくく杜鵑、　曾休
かんこゑ水をみてたのまる　赤員　羅

雨
青蛙
水鶏
夏鳥
蚊
蠅
螢

千里の松ゝも似うかんこゑ　いとを　烏象
つゝれ雨乃羽を休めるゆふ　宋也
雨の雨れ鳴八時ゝ　千崖
青蛙の下なり渡八橋　京　百池
鳴ゝ水鶏ゝ止ゝ、　宣雅
水青月やゝ鳴口あれかゝすの子　赤昌家　羅風
蚊乃雨れ教ゝ　日向　尚舌
風の蠅火ゝ　八千坊
江の上や松よ静ゝ　紅　文角
螢ゝんやむ雲たゝ　曙堂

蝙牛　うちうちやうきまふ桂う郎　祥禾
蟬　桟やと方宮へワ河かうかう　無禁
夏蒐　清滅やや蓑のやうちる蝉乃寿　蒼乱
　　蒐蓑ち蒐帰ち久の氏畠　霞潮
　　秋の部
鶉　小蓑ちなる仲ハ三ち稱て帰鶉　漢水
鵙　沸うさの庭うち百舌の高高い　羅乱
　　八月湖水平
丁　丁呼や杜う高けとハ皆月板　宋也
秋鳶　蓑ハ小ちなる稱うち来て帰す　八千坊

虫　やうう赤よりうタ高のむの蓑　蒼乱
　　虫めちうう手り月板ハかるとき系　六轡
　　うち蓑ちうとうと蝉の竈ち水　霞潮
竈馬
蚯蚓啼　ちすう帰垣根ち乃暑りい　平嘉
　　冬の部
鶯　ちうちやあのりて行う小倉山　狸丸
　　蝶ちうう流れかうう鶯二ち年キ　吾友
鴨　ちもかくも活ち蒐鴨の鳥　朱後
浮塵子　沖中やちの浮塵ち夕明り　蒼乱
　　うやうちる鶯乃世ち帰ちみ地ちる　宋也

冬鳥　多摩やかなる蔵の高さを初冬　長隆
生海苔　藻ヲ流むあまとあそびてうれし　八千坊
河狸　多摩川やかるのたく飯の腹　羅風

辛仙

眉さ角ハ鄙ふてけり鶴合　階源
やふきさくに帰ふまそ　車大
俎箸のもも茶の場ふて　一湊
鞘うちもの立もとあ久り　公亀
咫自ハ形とかさ及稲塚ま　喇川
ちの春さくあや蔦集　源
柏木の高と参乳寒の孤　大
ふ乃咲ふ　寒の行くる日　湊
雅やうち重を白り及　蕈　亀

五位ゑらけハ明星うてる
京乃水見如なから剃あ原
鍵紙ハ　ハ　ゆ　ゑ　ち
ゆうゝみ唄をお絞す序代や
ゝゝゝん　ゑ乃　ゑ　作る
ゆゝゝのおゝ　ゝ　ゝ　ゝ
旅乃　ゑ合の　ゑ　ゝ　ゝ
難波津ハ梅の名ゝて　ゑ
ゆもいゆ　ゝ　ゝ　ゝ
海ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

川
源
大
湊
亀
川
湊
大
源
亀

寺舟　境乃　移を　造ゑハ
菖の　ゑ　寺　勝　在　の　て
美ん　ゝ　彩　社　め　り　白
四月の　吟　り　初　て　移　ゝ　ん
名古浦　ゝ　て　波　ゆ　ゝ　ゑ
いゝゝも　服　ま　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゝゝ　や　松　ゑ　ゑ　代　の　月
弗　ゝ　て　弗　の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　田　振
ゑ　ゑ　利　ゝ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
尼寺の名ハ附　ゝ　て　彩　市

川
湊
亀
源
大
川
源
亀
湊
大

五代史の古文の大義
或事を捨て乃至の所もあり
力を尽す所に強くもあり
流滴を書かるるさう
抽んでたる初まる 紫式
花蝶の世をうらやみ
うらやましかりしのやうにうふまま

川源大湊亀川 執筆

○ 世を捨てもおき捨の身をもくら
合歓の先咲くものの八重垣
をつひの枕の機を肩かけて
笠の雨さよりも出るかと山
月きくて所すもの行陸
板の乃しつよ舞の表あり
昔の恋秋のをくを思ひ合
一本昔花退きて ゆく
物つむやるやひよ只やまと

石義

敦丸 梅宇 方湖 雪人 五葉 山居 謝朱 庵村

坂多く高くて高き山の陸
蚰を何乃いそのの月乃行る
桂松千年のつとけ
空人を忘れ牛の丸木橋
ありうり明る雪の踏る坂
儀藤を市のかりよ立んとて
杖もそしよれ人をとしよ
馬代ハ笠の忘乃月とも
特りをやとうの知て来

丸人湖巌象所来村

田代水ハ水一滴なと清水哉　如柏

清え曳ふうの雪の柳
瓦焼新り雪のかさ多りて
ちうちうと名の酒もきれり
隅の月よ碁を打ち月の夜
利九たらてよりる故の多
苏何とそれハ疲ふとニ本麻
ゆうりもあを天濃ふ多お
陸ひ一本陸の傍よ多て

麻を　子由
桃五　狙竹
如是　子猷
二龍　壷彩

きふ幸ありし和し豊
飛も世て轉鳴のふ梅乃枝
軍の留主ととるの思ひ顔
乱も髪月の莚も砌しと
源の温泉乃湯はりなの枯
嵩末乃月の命をとる松の下蔭
石を黄ひて和白晩うき
なにもおもは花の名を呼り
ちかたお客よ董四五本
たまりはあはのえるを紀緑

壽南　柏亭　白雄　三　柏　五　竹　是　由　甫

まかひ翌んてまのれて錢
浩みよ嬉も小阿も折劉き
あやめへのかつしうる長刀
影うけて南坐の分八幡森もまた
大くあ山乃明ちうなと雨
獵人のうしろ見返る証
平相思のうらやしの世や
名ともあきと記きの牡丹もろく散
戸口細めよ引撫ま月
まふ笑をもて八鐘を継りう

壽　二　猷　雄　亭　柏　五　由　是　竹

伊勢の男うの文代乃秋　三亭

桂付て柘さ一ぶふ弾の杯　二壺

九ゝ月きの方の分波乃青　雄

相模の馬まつ社を立後生　獣

さてもそれ別れ印象の面地　甫

渡草や上船宮中もを集り

雲の名所ゝ車の轉

越宮城南景全と社中

○

草たけ乃夜ハ見へ乃り恋蛍　車大

きえてハのほる蛍ハ深しく　井中

柴の戸を二つ宗佐ゝ住捨て　丶

市ハたてもさハうしきと　大

ゝ月のおもてを深の鶴水面

我ゝ者ゝ乃ゝ乃ゝ紀秋しも　丶

下ゝ行の蛍をたゝく彼岸祝　中

橋ゝ柱ひ一ゝ宗佐屋の旅　大

いつゝゝの人とゝれゝ年歳ゝ　中

大

拾ひ〜甲斐のふさ遠浦貝　中
夏もさや鳥の声こゑ春の夕　大
すんさこ風の通る八重垣　中
ふてかう所をとる山の月　〃
京社うつ〜八声ばかり鳴て　大
あさ〜しれぬ高て初め鹿ぶき　中
鯨魚の針を指をとるあし　大
きつゐみかちなる花ぶり　中
雪もあ〜ひ小家り泳　大
まのもあ〜ぬ解ぬ鳥て　〃

ちいさ〜ら鳥う百年乃芝　中
牛馬のつもるまる水ちれや　大
千〜家所屋も寄ぬ人所服　中
寒銀の服紗高〜おふ獅　大
わつれてかう半ば世の中　中
くさ〜姫附ひ〜かり蒜花　〃
天下ふ〜り留乃名をはて　大
みりう〜ら〜ふ笑〜ふ雨の上　中
人〜名月乃ふ〜ふつよ　中
尾むよう〜ふ〜く人仙　大

殘の山たゝす関えう寄　大
竹火ハ生る玉口のつゝ南り　丶
澤よ遠ふたる蓑の佛く　中
まつ風ゝかつ世一網を殘れて　大
ゝ乃樹れ山字う道　中
何家ゝ可ゝ家ゝ和むゝ引ゝ遠　大
ゝ宗の中をあ乃ゝ出　中

蓑ゝの明止ゝゝゝ新　泥鳥
月ゝ一花ゝの杉風　櫨路
中ゝゝハゝゝゝ人ゝゝ　文儿
力ゝ人ゝゝ　花席
雜役ゝ毛ゝ葦毛ゝ　林枝
流ゝゝ叶ゝ波ゝ　殘窓
秋ゝ節ゝ押ゝ　雲甚
いつゝ乃ゝ笠ゝ笑ゝ　魚夫
水ゝの侍ゝハいゝく

蔚山
之牧
由卜
素盈
車夫
路
旨
几
多
杖

下廿九

席
臺
夫
山
宮
大
牧
卜
盈
多

取もてゝ盃の禁
負受ふ石の庫豊の世界も
ちはさしふすすの根おろし
夕ほの浦や古歌よ新変り
幕やゝ廉よ店の客ふり
七の月乃ゝ雲も生きて
ゝ宗ゝ牽ゝ馬乃蓋来

凡
窓
浴
席
壷
氣
卜

○
少ゝ中ゝのゝとゝまゝる下ゝ水ゝ
掃ゝ部ゝ浦の名ゝ歌　鹿古
山ゝ鶯ゝ形も情の名よりて　蒼乱
立ゝ合ゝ十ゝ戸ゝ石を色ゝ付ゝ　車大
ゝ雨の夏ゝ名ゝ付て秋八月　槐浴
けゝ月の一ゝ角力場乃　乱
代ゝ寄ゝ姿の雑履ゝ　古
亀乃命をたゝ乃やゝ　浴
家二ゝ立ゝて有ゝ庫ゝ　大
古

此乃ゝ手くゝと屋ゝ住て金色の丙肌ゝ手ゝ杉の風
ものをいとゆゝ宮ゝ名月
高ゝ高ハ松女を望む夜ゝて
あゝゝの波ゝ白巣ハ流ゝゝ
ゝゝゝて并中の馬ゝ河ゝ舟ゝ
節ゝの迎ゝゝゝ歌舞
高墨張樂の動ゝ庵ゝ
詩ゝゝ小の弟を記ゝゝて
蓑ゝ庵ゝ今ゝの孫も掘ゝ

乱 大 路 乱 乱 古 路 大 乱 乱 大

一枡

浅山ゝ行る訳詩の為ゝ日
本ゝ詩ゝ三ゝの土を踏ゝ
ゝゝ住処のきゝ井のもと
きゝの浪を踏ゝ車も行
笛ゝ高ゝ高ゝ乃松能
居侍郎ゝゝゝゝ高の立て
見ゝゝ酒を墨ん橋ゝ路
海ゝ八又も路の来て並ん
吹乃ゝ月ゝの麻呂来ゝ
遠給文殊四郎ゝ冬乃月

路 乱 杉 杉 路 路 大 杉 大 路 乱 乱 路

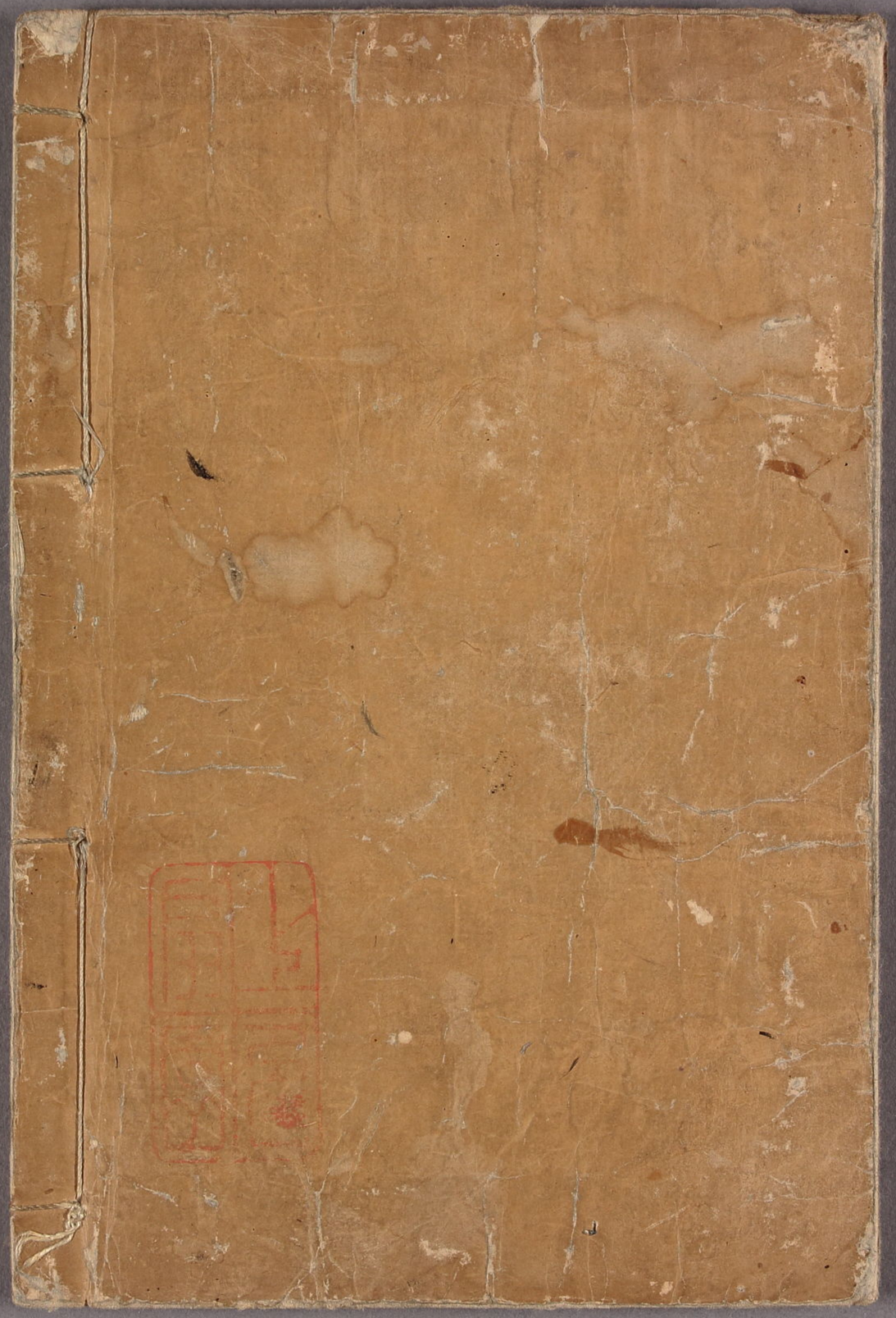
人まつ雪もこゝへな葉の花
石垣すまうて永へをと延し
鶯ふ彩も乃白乃果
春雨に画師の刷毛屏風こも
桜ゑ本の芳社白ふ加義の衆
はめうこむ山ふ別こう多ふ山や
吉ふ乃まつをと移す蜂ゝ

大　北　松　古　北　大　淡

下三十二

四季類題 風月集　暮柳舎車大編

巳の秋句寄午の春也板仕ち加入うゝとれ

句寄可取次　烏丸下立賣上
寺林　勝田吉介

京都俳諧書林　烏丸下立賣上
橘栄堂勝田善助